



歴史の重み



会長 羽田敏幸(六十一期)

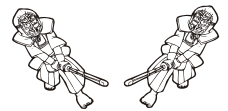
今年、上小剣道連盟(宮川克巳会長)は創立六十周年を迎え、記念行事として

「試斬大会」「記念式典」「記念剣道大会」が行われた。さらに「記念誌」が発刊される予定である。昭和二十七年に上小剣友会として発足(昭和四十四年に上小剣道連盟と改称)以来、大会・級段位審査会・講習会の開催さらに地元中・高生の指導等を熱心に行ってきた。上中剣道部出身の小宮山太助(十七期)、村上和夫(三十四期)、塚原忠雄(三十六期)、大石治(四十一期)の先輩各氏は会長として会の発展に努力されてきた。現在、県下でも稀な剣道・居合道・杖道の三部があり、多数のOBがそれぞれの部で稽古に汗を流し、役員として活躍している。そして、戦後の剣道班復活以来、上田高校剣道班も大変お世話になってきたことを忘れてはならないであろう。

数の下級生が見つめる前で上級生が真剣を用いて形を演武しているものがある。その道場の壁には『心如金石』の額が掲げられている(現在、所在不明)。これを揮毫したのは松本出身の陸軍大将で福島安正という人物である。彼はドイツ公使館付であった明治二十五年、帰国に際し一人で馬に乗りシベリアを横断し一年四カ月をかけて帰国したことで一躍明治の英雄となった軍人である。退役後は全国各地を回り『剛健主義』を説いた。明治・大正・昭和の日本を代表する剣道家である高野佐三郎の道場に掲げられた『修道学院』の額、さらに上田の武徳殿・現在は市の剣道場に掲げられている『剛健』の額も彼の揮毫によるものである。また大正五年四月には、上中の講堂で生徒に講演を行っていた。今回これらのことも判った。我々の先輩達が、福島安正の話に耳を傾け、「修道学院」「上中剣道場」「上田武徳殿」で彼の額の前で厳しい稽古を行ってきたこと、そして今もなお市の剣道場の『剛健』の額の下で後輩が技を競っていることを思うと不思議な縁と歴史の重みを感じるのである。



題字:細川武敏(41期)筆
OB会報誌第20号
平成24年12月1日発行
制作:会報編集委員会
(株)上田ワードプロセス企画
TEL. 0268-23-1122 (代)



インターハイに出場して

三年 三井 楓

私はインターハイでやり遂げると決めていたことが一つあります。それは「自分の剣道をする」ことです。今までたくさん試合をしてきた中で、一番悔しいと感じたのは自分の力が発揮出来ずに負けた時でした。高校最後の夏、「勝ちたい」と考えすぎてしまう時だからこそ「自分の剣道をする」ことだけに集中して東信大会、県大会を戦ってきました。そして、インターハイという今まで自分が経験してきた場とは比べ物にならないような大舞台でもこれだけはやり通そうと心にきめて試合に臨みました。2回戦負けという結果でしたが、最後まで自分の剣道が貫き通せた夏でした。

北信越かがやき総体

顧問 神津 純(七十七期)

8月6日から9日にわたり新潟市東総合スポーツセンターで開催された全国高等学校総合体育大会の女子個人に三井楓(百十一期)が出場しました。



攻されました。その後も両者譲らぬ攻防を展開し、終了際に三井の放った面が打突部を捉えましたが一本にまでは至らず残念な負けとなりました。しかし、終始攻め続ける剣道に徹することができたことは自分でも誇らしく思います。三井の日々の精進に心から敬意を表したいと思います。

県大会では初戦から延長に突入する厳しい試合でしたがよく耐え、準々決勝を逆転で勝ち上がると準決勝では完璧な試合を見せ総体行きを決めました。残念ながら優勝は逃しましたが、畑田美佐子(旧姓市村72期)、高井紀子(旧姓松崎96期)、内山美花(旧姓土屋101期定時制)に次ぐ快挙を成し遂げました。

会場は北信越大会と同じでしたが、全国の舞台というものは景色まで一変させるものだと実感しました。この感激は後輩にも是非味わってほしいと思います。



活動報告

幹事長 竹内茂直(七十二期)

事務局より二十四年度のOB会活動につきご報告いたします。

まず恒例事業であります宮下杯・稽古会・総会ですが、五月の役員会打合せを経て、ご案内のとおり、今年は六月二十三日にOB会員二十三名のご参加のもと開催されました。



例年通りまず上田高校体育館において、OB皆様のご協力のもと宮下杯争奪戦が行われました。今年は六十四期春原和民氏に審判長をお願いし現役生による熱戦が繰り広げられました。大会の結果につきましては別掲記事のとおりです。大会後現役生・OB合同の稽古会を行い、引き続き上田温泉祥園に会場を移しての総会・懇親会となりました。



総会につきましては六十一期羽田敏幸会長のご挨拶に続いて、六十五期若林健氏を議長に選出、二十三年度事業報告・決算報告、二十四年度事業計画・予算につき順次審議のうえ無事ご承認をいただきました。

引き続きの懇親会では、五十九期香山博氏の乾杯に始まり、特に今年はい出場を受け大いに盛り上がるなか、百八期福澤敬氏の方歳で和やかなうちにお開きとなりました。またご出席の皆様には会場で三井選手激励のカンパをお願いしましたところ、多くのご芳志を賜りありがとうございました。この稿をお借りしてお礼申し上げます。特に今年には久々に女性・学生のOB会員に総会に参加していただくことができうれしく思いました。男女を問わず、また参加者の年齢差は五十歳という世界で、剣道班という共通の話題のもとに懇親が図れるのも当OB会ならでは

はと思います。今後とも同期・お仲間の皆様もお誘い合わせ、多数のご参加をお願いいたします。

またもう一つの事業である『剣風』の編集にあたりましては担当役員の皆様に大変ご苦労をいただいております。例年十月頃から準備を始め、数度にわたる編集会議、取材、座談会の企画・運営等々を経て編集を進め、十二月の発行に至っております。今回は特に第20号ということで一同知恵を絞った内容ですが感想はいかがでしょうか。是非またOBの皆様からのご意見等お寄せいただければ幸いです。

最後に運動部OB連合会事業への参加についてですが、一月の幹事会に続



き二月十一日に総会が開催され当会も参加しました。総会に先立ち幹事班であるバスケットボール班七十八期の平林公男氏(信州大学繊維学部教授)の講演がありました。ご専門の水環境と水生生物についてという日頃なかな



か聞くことのできない内容で、興味深いものがありました。なお、今回の総会で連合会幹事はバスケットボール班から柔道班に引き継がれました。また、連合会恒例の春秋二回のゴルフコンペにも、引き続き有志のメンバーで参加しております。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝をお祈りいたしますとともに、引き続きOB会活動へのご支援をお願い申し上げます。以上

随筆・和親記より むかしむかしの信州のことばとひとびと

信州大学 大学院総合工学系研究科 教授 太田和親(百一期太田朝裕・父) 皆さん、日本語で浅間と信濃という意味がわかるであろうか? 地名であ

ることは皆知っているがその意味が山田や川口のようにすぐさま地形が想像できるような意味として理解できないはずである。何か音に本来の意味があり漢字は単なる音を表すための当て字のようである。

浅間の意味

他府県の人が、浅間(あさま)温泉と聞いたなら、それは浅間山の近くにあると思うであろう。また、浅間温泉の近くで浅間山荘事件が起きたと誤解していた人もいたくらいである。しかし浅間温泉は、不思議なことに浅間山荘事件が起きた浅間山麓にはなく、遠く離れて別系統の山塊にあり縁もゆかりもない。それは約50キロ南の松本市にある。浅間山とは全然関係がないところにある。さらに浅間という地名で不思議なことは、富士山山頂とその裾野で山梨県と静岡県、富士山の周囲を取り囲んでいくつも浅間(センゲン)神社と呼ばれる神社が点在していることである。浅間(センゲン)神社は正しくはアサマと呼ぶそうだが、江戸時代の終わり頃から通称センゲンと音読みになったそう。アサマはどうもアイヌ語であったようだ。山奥とか、家の土台とか言う意味らしい。従って、アサマは浅間山のみを表す固有名詞ではなく、もっと一般的な意味を表す普通名詞だったらしい。ところが、江戸時代にはもう元の意味が分からなくなってしまう、浅間(アサマ)神社は浅間山と混乱を避けるために浅間(センゲン)神社になったらしい。信濃の民話 信濃のとて古い民話に非常におもしろいものがある。

浅間山は女の神様で富士山のお姉さんにあたり、富士山も女の神様で浅間山の妹にあたる。地理的にその間にある八ヶ岳は男の神様で、その山の形は今のよう

に八つに頂が分かれているのではなく、富士山と同じような形の一つの頂になっていたそう

だ。この男の神の八ヶ岳と女の神の富士山がある時、自分の方が高い、いや私の方が高いと争った

この争いをとても心配そうに姉の浅間山は見守っていたそう

だ。決着がつかないので、天の神様は2人の頭の上に樋(とい)を掛けて水を流した

。そしたら、八ヶ岳の方に流れて勝負がついた

。負けた八ヶ岳は悔しくて爆発し、山頂が吹っ飛んで今のような八つの頂になってしまったという

私に聞いてはこうだったが、逆に富士山の方が負けて怒り、八ヶ岳を蹴飛ばしたので、山頂が吹っ飛んだという説もある

。いずれにしろ八ヶ岳はこの争いのあと爆発して八つの頂になったらしい

。八ヶ岳が有史以来噴火したなどというのは聞いたことがないので、この民話はおそらく何千年も昔の八ヶ岳の噴火のことを言っているのだらうと思われ

る。何千年も昔には、この信州の地域には、縄文人が住んでいたはずだから、その時の言葉がそのまま地名に残ったと考

えてよい。従って、アサマ山も、富士山の古名のフチの山も間違いない

く、縄文語であろう。カムイフチは火の神様というアイヌ語である

。富士山が噴火していた様子を表した名前に違いないと思う

。戦前、アイヌ語研究の大御所、金田一京助氏が、この巷間の説を強く否定してしまつたため、省み

られていないが、この民話および下に述べるおもしろい事実から、フチの山もアサマ山もアイヌ語系の地名だと強く示唆される

。信濃の意味 話が変わるが、信濃という意味も日本語で分かるであろう

か。シナノの漢字表記は信濃のほか科野などがある。従って、いわゆる音を写した当て字である

。高校の古典で更級(さらしな)日記というのを習ったことがある

。信州に来ると他府県にはないシナノの地名がやたらと多いの

にびっくりさせられる。更科(さらしな)郡、埴科(はにしな)郡、立科町、蓼科高原、明科、浅科、神科など

は親子関係にあるのだそう

だ。毎年10月には、出雲で開かれる寄合に神様全員出席されるので、全国的には10月

は神無月だが、出雲だけは神有月といわれる

。弥生人系の大和朝廷に追われて、縄文系の出雲人が諏訪地方まで逃げてきたというのが真相なの

だ。縄文系の人が、逃げてきて落ちていく先は未だ縄文系の人々が暮らしているところだ

た。そうでないと落ち着けないはず

だ。タケミナカタの時代には、西日本のほとんどは弥生人系に支配される状況だったのだらう

。これが、だいたい2000年から1800年くらい前のことであらう

。しかし、その後については、シナノの国として大和朝廷に組み入れられたのだと思

う。(後略)

。この続きはインターネットに公開されております

『太田和親著・和親記 第一話 <http://www.13.neda.ne.jp/~ko52517/s01.htm>』をご覧ください

。著者のご承諾をいただき、原文に手を加えずそのまま転載しました

。原



『OB座談会・プロレス編』

今回は、長野市若里にあるアマチュアプロレス団体「信州プロレスリング」(グレート☆無茶代表)で活躍中の、グレート☆無茶さん(41歳・八十八期)と、タイガー・チョット・チンさん(43歳・八十六期)に、インタビュアさせていただいた。

【聞き手】プロレスの世界に入った過程を教えてください。

【グレート☆無茶】プロレスは小さい頃から好きで、中学生の時によくプロレスごっこをしていました。大学時代には、プロレス愛好会に入っていました。社会人になり、普通に会社勤めをしていました。30歳になった時に、日々生活する中で「プロレスをしたい」という自分の夢が再燃し、一人で「信州プロレス代表グレート☆無茶」という名刺を作って、配り歩きました。半年たって、仕事かプロレスか決めなければならなくなった時、迷わず、プロレスをとりました。

【聞き手】そこから、賛同者が増え、活動が始まりました。長野を元気にしたい」といって活動しています。

【タイガー・チョット・チン】中学生、高校生の頃から、プロレスは好きでした。休み時間には、友達とプロレスしていました。

【グレート☆無茶】2012年に長野市で行った「無茶フェス2012」ビックハットです。藤波辰巳さん、長州力さん、初代タイガーマスク(佐山聡)さんにも出場いただき、5000人の観客の皆さんに見ていただけたことです。影で支えてくださった方々がたくさんいて、感謝しています。

【聞き手】リングネームの由来は?

【グレート☆無茶】グレートムタ(武藤敬司)が好きだったので付けました。憧れていた武藤さんと上田のアリオで戦わせていただいたことがあります。

【タイガー・チョット・チン】タイガー・ジェット・シンから付けました。技の「コブラクロウ」もいただきました。

【聞き手】どのように活動されていますか。

【グレート☆無茶】2007年5月5日に、上田市の上田創造館で、旗揚げ戦を行いました。観客300人が集まりました。入場無料のボランティア団体です。ので、依頼があれば、どこでも現地に行きます。

【タイガー・チョット・チン】週に2回ミーティングや練習も行い、信州プロレスアリーナで月に一回定期戦を行っています。

【聞き手】今までの試合の中で、印象

に残った試合はどのようなものですか。

【グレート☆無茶】2012年に長野市で行った「無茶フェス2012」ビックハットです。藤波辰巳さん、長州力さん、初代タイガーマスク(佐山聡)さんにも出場いただき、5000人の観客の皆さんに見ていただけたことです。影で支えてくださった方々がたくさんいて、感謝しています。



【タイガー・チョット・チン】2011年10月16日に、震災後に栄村で行った「無茶フェス2011 in 栄村」です。ゲストに大仁田厚さんや、井上京子さんにきていただき、井上京子さんと戦った試合が印象に残っています。

【聞き手】どんなことをモットーとして行っていますか。

【グレート☆無茶】SWF(信州プロレスリング連盟の略)は、明るく、楽しく、安全第一、台本重視、入場無料をモットーにしています。子供さんやお年寄りの方々の目線を見て、危険なことはいらない、プロレスを楽しんで見てもらおうようにしています。笑いも重視していますので、台本を作り、練習しています。

【タイガー・チョット・チン】悪役キャラなので、各地のイベントでは、その場所の敵役とかを演じます。楽しんで、笑っていただいて、ストレス発散になってもらえれば嬉しいです。

【聞き手】他にどのような活動をされていますか。

【竹内】2010年には、SLWF(信州プロレス女子部)を立ち上げ、2011年には、信州産アイドル学園「あつふる学園応援部」を立ち上げた。女子の力で長野を元気にしようという試みです。

【聞き手】ご当地アイドルとして、長野県の市、町、村に代表でひとりずつアイドルを選出し、それぞれの地域の特産物などをアピールしていけば、長野県全体が元気になると思います。

【聞き手】2012年には、「いじめ退治作戦」と称し、いじめに悩んでいる子供たちの相談を受け付ける取り組みも始めました。

【聞き手】相談しやすい第三者として聞くことで、いじめの早期解決に繋がりたいです。施設訪問をして、子供たちと遊ぶ活動は、毎年行っています。

また、「信州プロレスリング」に何回か、差出人不明の応援メッセージと現金の入った封筒が届けられています。影で応援して下さっている方々の存在は、うれしかったです。

【聞き手】剣道の戦歴や、当時の事などを教えてください。

【グレート☆無茶】清明小学校の頃から剣道をやっていました。上田第二中学時代は、東信大会、県大会などに出場、高校2年生の時に、秋の新人戦で団体優勝しました。

【タイガー・チョット・チン】上田第二中学校で個人戦で全中に行き、高校では、団体戦で、インターハイに行きました。稽古の時、先輩方が来ると気合がはまりましたね。特に○○先輩が来ると違いました。剣道を通じてできた仲間は、今でも大切です。

【聞き手】これからどのような活動をされますか。

【グレート☆無茶】これからも「明るく、楽しく、安全なプロレスごっこを通じて、長野県に夢と元気を提供するエンターテインメント集団」として活動していきたい。

【聞き手】「信州☆総タイガーマスク化計画」もしていきたい。

【タイガー・チョット・チン】子供からお年寄りまで、見た方がみんな楽しんでもらえるような「長野を元気にする」活動を続けていきたい。





【取材・編集担当】
正村聖美（八十期・編集委員）

【出席者】写真前列、向かって左から
グレート☆無茶（八十八期）
タイガー・チョット・チン（八十六期）
柳澤哲（八十六期）
写真後列、向かって左から
近藤敏朗（八十二期）
佐藤 博（七十六期・編集委員）
坂城町の柳澤モーターズ事務所にて

※グレート☆無茶さんと、タイガー・チョット・チンさんの本名を知りたい方は、剣風のホームページにある、会員制掲示板にアクセスしてみてください。

剣道今昔

顧問雑感

神津 純

春の東信大会では男女優勝という結果を残すことができました。優勝杯を二つ授与された感激は忘れられません。その後の総体予選の女子個人で三井楓が2位となり、インターハイ出場。その大会で全国まで後一步と迫った男子は自分

「今」

平成二十四年

達の最後の大会にと玉竜旗に参加。福岡大大濠に5人抜きをされましたが4回戦まで進出。自分にとっても初めての玉竜旗を堪能できました。充実した年でしたが、悲願の男女インターハイに向け精進して参ります。

平成 24 年度戦績

新潟県春季剣道錬成大会 (4/2)

男子 3 回戦 女子 2 回戦

第 8 回謙信公杯争奪高等学校剣道大会 (5/4)

男子団体 3 回戦 女子団体ベスト 8

第 151 回東信高等学校体育大会 (5/11, 12)

男子個人 和田友樹 6 位 矢ヶ崎日路 7 位

男子団体 1 位

女子個人 三井楓 3 位

女子団体 1 位

長野県高等学校総合体育大会 (6/2, 3)

男子個人 矢ヶ崎日路 4 位

男子団体 2 位

女子個人 三井楓 2 位

女子団体 ベスト 8

北信越高等学校剣道大会 (6/16, 17)

男子個人 矢ヶ崎日路 2 回戦

男子団体 予選リーグ 3 位

女子個人 三井楓 3 回戦

剣道班 OB 会第回宮下杯 (6/23)

男子 1 位 朝倉雄磨 2 位 杉田竣

女子 1 位 三井楓 2 位 久保田琳里葉

東信高等学校剣道選手権 (7/16)

1 年 女子 深井美希 正村薫 3 位

2 年 男子 茂木凱貴 3 位

1 年 男子 杉田竣 1 位 小林新 3 位

上小高等学校剣道リーグ夏季大会 (7/22)

男子 1 位

女子 2 位

玉竜旗剣道大会 (7/27, 28, 29)

男子 4 回戦

全国高等学校総合体育大会 (8/6 ~ 9)

女子個人 三井楓 2 回戦

第 5 回上毛旗剣道大会 (8/13)

男子 3 回戦

女子 2 回戦

第 6 回真田幸村杯剣道大会 (9/16)

男子 1 位 女子 3 位

第 38 回東信青少年剣道大会 (9/30)

男子 1 位 女子 1 位

第 152 回東信高等学校体育大会 (10/20, 21)

男子個人 杉田竣 5 位

男子団体 1 位

女子個人 正村薫 3 位

女子団体 3 位

第 20 回諏訪湖大会 (11/11)

男子団体 3 回戦

女子団体 2 回戦

平成 24 年度長野県高等学校新人体育大会 (11/17, 18)

男子個人 杉田 1 回戦

男子団体 4 位 (北信越大会出場)

女子個人 正村 2 回戦

女子団体 2 回戦



昔 今 道 剣

撃剣試合

由・新潟は冬長く雪深くして、舎内の遊技最も發達すべき機会を有す。うれかあらぬか、撃剣に於ては雄名風に天下に鳴り、去年京都武徳會にて、催せる晴れの場所に於ても新潟縣學生二拾有餘名出場者中唯一名を除いて、皆勝利者たり。餘威彌が上に感なる折しも懸軍長繼、我校の健兒三名竹刀を負ひ、新潟縣高田中學校まで試合せんとて、武者修行に奔走掛けたる。

時維明治三十四年十月十三日生憎や朝來の晴朝に似もやらず、微雨蕭々として至り、到底庭内に催し得べくもあらざれば、陰鬱影暗き雨天体操場にて舉行するのまどと定めぬ、一番又一番、竹刀の飛ぶは電光の如く、掛聲は虎の哮ゆるが如し。長野方の旗色は亂れ立ちて争見にける、負けての後の鉄言と笑はるよも口惜ければ今更審判及組合せの公不公に就て兎や角、批評か間敷ことを兼にするにあらねども、縣下はいざ知らず。他縣へ試合に出掛ける際には、此二点に就て、己が利益

昔

明治三十三年〜三十四年

撃剣試合

十月三十一日午前九時撃剣試合を雨天体操場に開き布施先生審判の勢を執る演武者六拾八名之を東西二軍に分ち先三本勝負を行ひて勝者敗者に分ち各別毎に左翼より一本勝負五人抜を行ふ敗者は別に於て此名譽を獲たる者は、一年丁の猿谷貞三氏一名勝者の列に於ては一年乙箕輪浩氏及四年乙小山茂氏二名とす四年甲瀧澤保氏對五年瀧澤好氏は三本勝負の際引分にて勝負なく最優者として右の三名と共に銀賞牌を受けたり最後に拾四名を源平二隊に分ち土器破を行ふ合圖の一聲と共に兩軍喧嘩肉薄入り亂て戦ふ暫時にして源氏方の勝に決し丁で布施先生より三本勝負の勝利者に賞品の授與あり次に茶菓の小會ありて午后零時四十分散會す

- 野球科 櫻井彌一郎君 庭球科 尾崎光之助君
 - 撃剣科 瀧澤 好君 弓術科 秋山貞 三君
- 諸氏は昨年天皇節以後一ヶ年間運動部各科に於て第一の成績あり功勞ある者と認定せられ金牌及會長の指定寄附にかゝる悦時計一個づつを授與せられたり、かえて唖然たる集合喇叭は高々響き渡

を正當に自衛する丈に力方なる代表者を參列せしめざるこの危険をば、今回の行、明かに我念頭に印せしめたるを奈何せん。小林安衛氏は足を病んで行くこと能はず、小山茂氏之に代りて高〇綿貫氏に對す。沈勇善く戦ふ、嗟々我ををして一言を審判に拂ひを得せしめしからばよ、軍扇は遂に綿貫氏に奪りける。次に長中對高申一軍了りて瀧澤好氏對新師島崎豊氏、續て瀧澤保氏對高申中布施貴三氏最後に長中關谷吾一氏對新師丸山雄吉氏を以て終局を告げ、三番共に新潟方の勝利と註されたり。前後之を旅寓の主人に聞く、縣下、馳名の最も噴々たる者を島崎布施両氏せず。之を戦うて斃る、亦多少の慰籍あるを覺ゆ。敗餘の某余に言て曰え爲すべき者は、旅こそありける、此行に言て失ふとも経験に得たる所、之を償うて餘ありと。臥薪嘗膽の苦を積んで會稽山の耻いつかは雪ぎなん。由來眠れる獅兒の姿を負へる中借の健兒自重自愛せよ。(牛行生)

り一同は場内に整列し會長の先唱にて 天皇陛下皇后陛下皇太子殿下同妃殿下の高歳を唱へ次に上田中學校友會の高歳を絶叫して解散せしは午後四時頃なりき當日來賓の重かるものは小縣郡長上田町長裁判署長以下稅務署員警察署員郵便局員各學校長職員等百餘名觀衆も亦万に近く實に未曾有の盛會なりき

- 全 中村 友
- 全 宮下 新一郎
- 全 林 重 鑑
- 全 堀 川 敬 治
- 全 和田 櫻 吉
- 全 手 塚 謙 雄
- 全 櫻 井 謙 吉
- 全 齋 藤 乙 三 郎
- 全 市 川 貞 作
- 全 宮 島 藤 三 郎
- 全 勝 俣 美 吉 郎
- 全 武 衛 教 師 足 立 基 義
- 全 武 衛 教 師 横 田 地 關 水 郎

- 全 教 諭 心 得 兼 倉 監
- 全 教 諭 心 得
- 全 林 重 鑑
- 全 堀 川 敬 治
- 全 和田 櫻 吉
- 全 手 塚 謙 雄
- 全 櫻 井 謙 吉
- 全 齋 藤 乙 三 郎
- 全 市 川 貞 作
- 全 宮 島 藤 三 郎
- 全 勝 俣 美 吉 郎
- 全 武 衛 教 師 足 立 基 義
- 全 武 衛 教 師 横 田 地 關 水 郎

剣道班・アーカイブス

当 剣道班OB会では、明治~大正~昭和に至る貴重な写真を関係者のご協力を得て収集し、後世に残す為データ化した。以前、平成十四年発行の『剣風 10 号』で羽田会長が寄稿した、「郷土の剣士・下」より新井守太郎氏について転載をし、貴重な写真を紹介する。

郷土の剣士・下

昨年の本紙(編集部注：昨年とは平成十三年)で郷土を代表する剣士として、明治時代に活躍した堀内亀之助、小野田伊織を紹介した。今回は大正・昭和に上田で上中師範の伊藤長三先生とともに剣道発展に中心的役割を果たされた新井守太郎先生を取り上げたい。

武徳会上田支部設立、上田武徳殿建設の推進力となり上田地区剣道界に大きな功績を残された氏について、自叙伝『喜寿の安由身』(昭和三十三年、上小剣友会刊)によつて足跡をまとめてみた。明治十七年更級郡更府村(現長野市信更町)に生まれ日露戦争に従軍負傷する。兵役免除後、長野県警察に在職十年、この間「鬼の柴田」の異名のある柴田克己師範(旧高田藩士、山岡鉄舟直弟子、西南戦争で抜刀隊を率いて転戦)に師事し剣道を学ぶ。その後、宮内省に奉職し京都詰めとなり大日本武徳会本部にてさらに修行を重ね、東京詰めになった三年間は皇居内の済寧館にも通われた。退官後、昭和四年上田に帰られ武徳会支部設立に奔走され昭和七年の築城三百五十年祭中に、上田中学で発会式が行われた。その傍ら小泉蚕業学校剣道教師松原大造、上田中学剣道教師伊藤長三(「剣風」三号で特集)先生らと警察、学校での指導に努力され、昭和十四年、甲田作衛上田中学校長より感謝状を贈呈される。また、両先生らとともに京都での武徳会に何回も出場し天覽試合にも出場された。昭和十三年に上田公園

内に完成した武徳殿設立に際しては、その中心となつて努力された。完成後はこちらが上小地方の中心的道場となり多くの若き剣士が諸先生方の指導のもと稽古に汗を流し技を競つた。戦後、昭和二十三年に松原、二十四年に伊藤の両先生が亡くなられた後の二十五年に新井先生は千葉県流山市に転居され余生を過ごすこととなる。剣道禁止が解除された二十七年、上小剣友会が発足するや参与に推挙され、その後も上田との関係は続いた。『喜寿の安由身』の刊行の辞で小宮山太助剣友会会長は「先生は敬神崇祖の念厚く長年にわたる御歴代の皇陵や由緒ある神社に詣でられ、剣を愛し旅行を楽しまれたなど、老剣士として相応しき古武士的生活を続けて居られる」と記している。また、この書の中では戦前から戦後にかけて剣道を愛しその発展に努力された長野県・東信・上小地方の剣道人の略歴、剣歴がまとめられており、その中には金子行徳、小宮山太助、春原新三郎、塚原忠雄、依田嘉人、中島益雄、永井要、宮下力、上原正之助、金子八郎、永野春海、松崎久、工藤善一郎、山内英作、大石治、村田文明、井出伊織、山内輝子など我々とも関係の深い諸先生・諸先輩の名前が見られる。いま、この稿を書いているわたしの脳裏には審判席に座つて居られる、長い白髯をたくわえ羽織袴の晩年の新井先生の姿が鮮明に浮んでいる。

(平成十四年 羽田敏幸六十一期)



建設功勞者：新井守太郎、大日本武徳会上田支所長成澤伍一郎、上田中学伊藤長三、資金全額寄附者手塚守二の各氏による上田の旧武徳殿（左）と後年管理が変更された上田市体育館（右）



現在の上田市剣道場落成記念大会にて、左から春原新三郎、塚原忠雄、小宮山太助、新井守太郎、上田市教育長、清水憲雄、山内英作、の各先生方



左端：新井守太郎先生、右端：伊藤長三先生
武徳殿建築予定地（上田公園内）にて

右・新井守太郎先生四十二歳
左・剣道範士柴田克巳先生八拾歳

会員のひと言コラム

通信欄（葉書及びホームページより）

剣道とは縁のない生活を送っています
が、最近懐かしい上田高校の剣道場に入
る機会がありました。現役の高校生の
防具・竹刀を見て、高校時代を思い
出しました。
81期 竹村典枝

イタリアでの世界剣道選手権大会に、
国際剣道連盟アンチ・ドーピング委員
長として参加してきました。今回の（総
会）稽古会には残念ながら出席できま
せん。ご盛会を祈ります。
64期 宮坂昌之

娘の万智が皇宮警察剣道特練の勝連亮
太さんと結婚しました。結婚式主賓の
高寺恒穂主席師範（教師八段）の実家
は上田で、おじいさんが武徳殿を建て
られたとのこと。建物解体の時は、招
待され上田に来たことを楽しそうに話
しておられました。
74期 関戸啓司

東北、岩手県釜石市で新日鉄釜石製鉄
所病院、院長、理事長、顧問、など長
く勤めまして、4月中旬に坂城に帰っ
て参りました。現在こちらへ帰つての
整理などで一寸落ちつきません。今後
何とか参加させて戴きたく思います。
よろしく。
41期 中村好和

中学体育への武道の必修化が始まり、
考えさせられるところが多いです
76期 松井 敦

四国高松（うどん県）にて独立へ向け
修行しています。JR高松駅近くのア
イリッシュパブですので、観光・出
張の際は是非お声かけ下さい！www.
Heaciac.biz（ザ・クラック）皆様の
御健勝とご活躍をお祈り申し上げます。
104期 柳田晃一郎

七段取るため、隔月で日本武道館の定
例稽古にかよっています。
74期 宮沢伸彦

6月末から海外に転勤になります。
86期 竹内智仁

文武両道、母校の皆さんの活躍を祈り
ます。千葉大学理学部での教育・研究
活動を、公的身分を終えて久しくなり
ますが、研究活動は継続中。
56期 大日向昂

今年は北信越インターハイの年、私は
何故か卓球のインターハイ役員（長野
市開催）になっており、（総会）当日
は会議のため欠席します。現役の皆さ
んには、一度勝利した相手に勝ち続け
るためのためまぬ精進を期待します。
三年生の皆さんはご苦労さま。
79期 宮崎 浩

東京新聞経済部に電機メーカーの不
振等取材しています。
96期 林 啓太

なかなかタバコがやめられません。値

上げて欲しいのが3つあります。①
タバコ税、②ガム税（最近ガムのポイ
捨てが多い）、③ペット取得税・犬税
消費税の前に考えて欲しいと思いま
す。
66期 清水通夫

私は、小学2年の時から、松平神社（現
真田神社）の入口にあった武徳殿で伊
藤先生の指導を受け、中学生の時は、
自然に剣道部に入ったと思います。あ
まり熱心な部員でなかったのに、いつ
もお便り頂き恐縮しています。6月、
89才、親しい友は皆亡くなり独り、生
き残って、われ乍らあきれいています。
40期 渡辺卓郎

今年の国体が岐阜県で開催されるた
め、岐阜県剣道選手権大会が例年より
一週間早くなり、OB会と重なり、残
念ながら出席できません。5月3日に
第108回全日本剣道演武大会（京都
大会）に出場し、大阪の伊藤勲先生と
対戦し、コテの一本勝でした。尚、早
朝稽古で上小剣連の宮川会長に声をか
けられましたが、京都大会は思いがけ
ない人とお会いでき、生涯剣道に価値
大です。
62期 飛田武昭

宮下杯優勝者の声



【男子優勝】三年百十一期 朝倉雄磨

高体連の大会が一通り終わり、この宮下杯で優勝という形で自らの高校三年間の剣道生活の最後を飾れたというのは、大変嬉しくもあり、良い締めくくりになったと思います。思い返せばこの三年間は長くもあり、あつという間に駆け抜けたとも感じます。中学校の頃、上田高校の先輩に魅せられ、足りない学力を振り絞って入学し、その先輩方とインターハイという夢のような舞台に立たせていただきました。試合終了のブザーとともに涙と歓喜に包まれたあの光景を自分の代でも目にしたい、後輩に見せてやりたいという気持ちで臨んだ県大会。自分のせいで、その切符を逃してしまいました。あと少しではあつたけれど、とても大きな”あと少し”だと思えました。

その後の数週間、決勝の舞台で勝っている自分の姿を何度想像したか分かりません。それだけ悔しかったです。この悔しさを味わうことのないよう、後輩達には全国へ行つてほしいと思います。期待もしているし、応援もします。ただ最後はやはり自分なのだ、ということをお忘れないうでほしいです。負けてしまい、自分はこの班に何か残せたのでしょうか。一つでも心に留まるものを残せたのであれば、それは一番の喜びです。

そして、今日までにたくさんさんの大会、三度の北信越大会を経験できたこと、大変嬉しく思うとともに本当に良い先輩方、仲間達と出会うことができたのだと改めて感じます。また、その陰で保護者の方々、OBの皆さんのご支援があつたことは、ここに至るまでの多大なる原動力となりました。本当にありがとうございます。

【女子優勝】三年百十一期 三井 楓

私にとつての最後の宮下杯、今年は少し特別な気持ちで臨みました。既に代替わりをして新しいスタートをきっている後輩達は以前よりも頼もしく見え、そんな後輩の姿に私も負けていたれないぞと、やる気ももらいました。班員との試合をOBの先輩方に審判して頂くという、この大会独特の緊張感の中でありますが、去年に引き続き優勝することができました。3年生が上位を占めたものの、1、2年生の気迫や粘り強さを感じた、充実した大会になつ

たと思います。今年が最後の宮下杯となる同期の仲間の姿に少し寂しさを、新体制となつた後輩達に大きな期待を感じた最後の宮下杯でした。

また今回、インターハイ記念として、OB会から記念道着と袴を頂きまして、道着、袴に限らず、大会参加に關わる諸費用など、OB会の皆様には様々なご支援ご協力を頂きました。改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

現役生の声

【班長】三年百十一期 矢ヶ崎日路

私はこの伝統ある上田高校剣道班の主将を務めさせて頂いたこと、それから、最高の仲間にも恵まれたことに、大きな幸せと誇りを感じています。(私の我儘であつたが)憧れの玉竜旗大会にも出場することが出来た。本当に充実した、あつという間の現役生活であつた。

一年生の夏、上田高校がインターハイ出場を決めたとき、私は途中から中堅として出場したが、全く力を発揮することができず、チームに迷惑をかける非常に苦しいデビュー戦となつた。自分の弱さに腹が立ち、引き分けにすることさえ出来なかつた、あの時

の情けない気持ちは今でも忘れられない。しかしながら、そんな自分を抱えながらも、見事に優勝を果たした先輩方は、私にとつて本当に大きな存在であつた。最高の仲間とインターハイを目指した日々は、そんな先輩方の背中を追いつける二年間でもあつたと思う。

私が主将になり、インターハイを目指して様々なことに取り組む中で、一番大切にすることは「全員剣道」というテーマである。脱落者を出さないことはもちろん、一人だけが九十点なのではなく、全員が八十点のチームを目指した。短い稽古時間の中で創意工夫を凝らし、密度の高い稽古を全員で心掛けた。

最後の県大会、決勝戦、相手は佐久長聖。二年前とは違い、今度は自分がチームを引っ張っていく立場となつた。チームを背負つた。もう負ける訳にはいかない。私たちは今までの積み重ねてきたことをすべてぶつけた。大将戦までもつれる大接戦となつたが、惜しくも敗れ、準優勝。しかし、班員全員で一つの目標に向かつた努力の日々は尊く、今でも私は、この上田高校剣道班が何処よりも何よりも最高のチームだと、心の底から思っている。

今まで私たちを支えて下さつた先生方、OBの先輩方、保護者の皆様、ありがとうございます。そして、共に笑い、泣き、感動し、ずっと夢を見させてくれた剣道班のみんな、本当にありがとうございます。みんなは俺の誇りです。

編集後記

師走は何かと気ぜわしくなる。「年内に仕事を片付けたい」「やるべき事を片付けて、新しい年を迎えたい」そんな気持ちからか、時間の過ぎ去るのが速い。今年は地元、上小剣道連盟の六十周年記念誌の編纂に關わり、先人の剣士諸先生方の活躍を知つた。これをぜひ後世に伝えたいと思つた。「佐」

OB会ホームページ <http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/>
会員制掲示板ID : ueda パスワード : 1111

- 一月二日OB会のお知らせ
日時平成25年一月二日
- 13時半～OB対現役生對抗試合
15時～稽古会 上田高校第二体育館
- 17時半～懇親会の受付
18時～懇親会 大門町「ささや」
(会費5000円)
- ※幹事(一〇七期) 清水貴茂
090-4954-8178

来年度のOB会は
6月22日(土)です

●来年度会費納入のお願い●
会費(三千元)およびご寄付の納入は、十二月末日までお願い申し上げます。

○住所変更の方は幹事長までご連絡下さい。
幹事長 七十二期 竹内茂直
〒389-0505東御市和2789

もしくはホームページ管理人までE-mail
kenshi-65@jupter.sannet.ne.jp